# 南蛮文化

16世紀中頃からおよそ1世紀の間、日本はポルトガルをはじめスペインなどヨーロッパの国々と交渉をもっ た。この交渉を通じて、学術・思想・信仰・文化・風俗など多くの面で、ヨーロッパの影響を受けた。これら 南蛮文化は、安土・桃山時代から江戸時代初期にかけての華麗な文化を形成する上で、重要な役割を果たした。

## ○南蛮文化

## ●文化の背景と影響

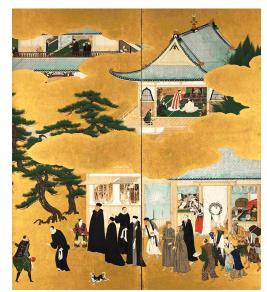
南蛮文化の背景には、次の2つがあげられる。

- ①ポルトガルやスペインとの(1) \_\_\_\_\_貿易
- ②カトリック宣教師による(2)
- →実用的な学問、南蛮風の衣服・食事などをもたらし、 その影響が名前として残っているものもある。
- ⇒文化自体は、江戸幕府の鎖国政策で短命に終わった。

#### <絵画>

南蛮の珍しい風俗を主題とした(3) 日本人の手によって描かれ、南蛮文化の様子を今日に伝える。

⇒南蛮から油絵や銅版画の技法がもたらされ、 西洋画の影響を受けた(3)も描かれた。



南蛮屛風 (奥に南蛮寺)

### <印刷>

が金属製活字による活字印刷術を伝え、 宣教師(4)

活字印刷機も輸入された。

- ⇒代表的な書物には、ポルトガル語で日本語を解説する『日葡辞書』や、

イエズス会が九州天草で刊行した<sup>(5)</sup> 版『平家物語』『イソップ物語』がある。

◇イエズス会が刊行した書物を<sup>(6)</sup> 版と総称し、

刊行地に基づいて細かく(5)版・長崎版などと分類



図2 天草版『平家物語』





図5 ポルトガル語由来の名前 \*カステラ \*金平糖

\*ビードロ(硝子のこと)